

【 復活讃詞 第2調 】

しせざるいのちよ、なんぢしにくだりし
死 生 命 爾 死 降

と時 き、かみのせいひかりにてぢご
時 神 性 光 地 獄

くをころせり。しせしものをちかよ
殺 死 者 地 下

りふくかつせしめしとき、てんぐんみな
復 活 し 時 天 軍 皆

よびていえり、いのちをたもうしゆ
呼 日 生 命 賜 主

ハリストスわがかみよ、こうえいはなんぢに
吾 神 光 榮 爾

き
歸 す。

【 日本の亜使徒ニコライの讃詞 】

こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも
光 榮 父 子 聖 神 歸 今

いつもよよに、アミン。
何 時 世 世

しととひとしくどうざなるもの、ちゅう
使 徒 等 同 座 者 忠

じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい
實 神 智 役 者 聖

なるしんにえらばれたるふえ、ハリストスのあい
 神 撰 笛 愛
 にみちたるうつわ、わがくにのこう
 満 器 我 國 光
 しよ お しゃ、あしとしゅきょうせいニコライ
 照 者 亜使徒主教 聖
 よ、なんぢのぼくぐんのため、および
 爾 羊 群 爲 及
 ぜんせかいのため、いのちをたもうせい
 全世界 爲 生 命 賜 聖
 さんしゃにいのりたまえ。
 三者 祈 給

【 聖三の歌 】

代禱) ^{しゅ}主よ、^{けいけん}敬虔なる^{もの}者を^{すく}救い、^{およ}及び^{われら}我等に^き聆き^{たま}給え、

しゅよ、けいけんなるものをすくい、およびわれ
 主 敬 虔 者 救 及 我
 らにききたまえ。
 等 聆 給

代禱) ^{よよ}世世に、

ア ミ ン。

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
 聖 神 聖 勇 毅 聖

じょう せい の も の よ、 わ れ ら を あ わ れ め
 常 生 者 我 等 憐

よ 。 せ い な る か み、 せ い な る ゆ う き 毅、 せ い
 聖 神 聖 勇 毅 聖

な る じょう せい の も の よ、 わ れ ら を あ わ れ
 常 生 者 我 等 憐

め よ 。 せ い な る か み、 せ い な る ゆ う き、
 聖 神 聖 勇 毅

せ い な る じょう せい の も の よ、 わ れ ら を あ わ
 聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん
 光 榮 父 子 聖 神

に き す、 い ま も い つ も よ よ に、 ア ミ ン。
 歸 今 何 時 世 世

せ い な る じょう せい の も の よ、 わ れ ら を あ わ
 聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 せ い な る か み、 せ い な る ゆ う
 聖 神 聖 勇

き 毅、 せ い な る じょう せい の も の よ、 わ れ ら を
 毅 聖 常 生 者 我 等

あ わ れ め よ 。
 憐

【 提綱 (プロキメン) 主日第2調 】

代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) プロキメン、^{しゅ}主は、^わ我が^{ちから}力、^わ我が^{うた}歌なり、^{かれ}彼は^わ我が^{すくい}救となれり、



しゅ は わ が ち から、 わ が う た な り、 か れ は わ
主 我 力 我 歌 彼 我



が す く い と な れ り 。

救

誦經) 主は^{しゅ}厳しく^{きび}我を^{われ}罰^{ばつ}したれども、^{われ}我を^し死^{わた}に付さざりき、



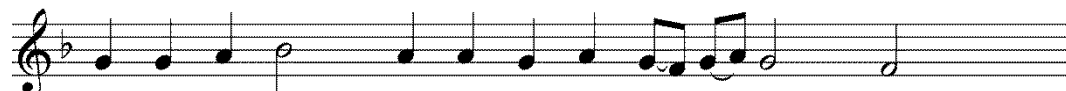
しゅ は わ が ち から、 わ が う た な り、 か れ は わ
主 我 力 我 歌 彼 我



が す く い と な れ り 。

救

誦經) 主は、^{しゅ}我が^{ちから}力、^わ我が^{うた}歌なり、



か れ は わ が す く い と な れ り 。

彼 我 救

【 使徒經 (アポストロス) 141 端 コリント前書9章2~12節 】

代禱) ^{えいち}睿智、

誦經) ^{せいしと}聖使徒^{じん たつ}パヴェルが^{ぜんしょ}コリント人^{よみ}に達する^{よみ}前書^{よみ}の^{よみ}讀、

代禱) ^{つつし}謹^きみて^き聽くべし、

誦經) ^{けいてい}兄弟よ、^{なんぢら}爾等^{しゅ}は^{おい}主に^{われ}於て^{しとしよく}我の^{いん}使徒^{いん}職^{いん}の^{いん}印^{いん}なり。我^{われ}を^ぎ議^ぎする^ぎ者^ぎに^{われ}我が^{もの}答^{もの}うる^{もの}所^{もの}是^{もの}是^{もの}なり。

^{われら}我等^{われら}豈^{われら}食^{われら}い^{われら}飲^{われら}む^{われら}に^{われら}權^{われら}なき^{われら}か。我^{われら}等^{われら}豈^{われら}姉^{われら}妹^{われら}なる^{われら}妻^{われら}を^{われら}攜^{われら}うる^{われら}こと、他^{われら}の^{われら}使^{われら}徒^{われら}及^{われら}び^{われら}主^{われら}の^{われら}の^{われら}。

^{けいてい}兄弟、^{およ}及び^{およ}キ^{およ}ファ^{およ}の^{およ}如^{およ}く^{およ}然^{およ}る^{およ}權^{およ}なき^{およ}か。抑^{およ} ^{およ}獨^{およ} ^{およ}我^{およ}と^{およ}ヴァ^{およ}ル^{およ}ナ^{およ}ヴァ^{およ}とは^{およ}工^{およ}作^{およ}せ^{およ}ざる^{およ}權^{およ}なき^{およ}か。

^{だれ}誰^{だれ}か^{だれ}軍^{だれ}士^{だれ}と^{だれ}爲^{だれ}り^{だれ}て、^{だれ}己^{だれ}の^{だれ}給^{だれ}養^{だれ}を^{だれ}以^{だれ}て^{だれ}勤^{だれ}む^{だれ}る^{だれ}を^{だれ}せん。誰^{だれ}か^{だれ}葡^{だれ}萄^{だれ}を^{だれ}樹^{だれ}えて、^{だれ}其^{だれ}果^{だれ}を^{だれ}食^{だれ}む^{だれ}ら^{だれ}ん。

^{だれ}誰^{だれ}か^{だれ}群^{だれ}を^{だれ}牧^{だれ}して、^{だれ}羣^{だれ}の^{だれ}乳^{だれ}を^{だれ}食^{だれ}わ^{だれ}ざ^{だれ}ら^{だれ}ん。我^{だれ}唯^{だれ}人^{だれ}の^{だれ}情^{だれ}に^{だれ}循^{だれ}いて^{だれ}之^{だれ}を^{だれ}言^{だれ}う^{だれ}か。

^{りつぼう}律^{りつぼう}法^{りつぼう}も^{りつぼう}亦^{りつぼう}斯^{りつぼう}く^{りつぼう}言^{りつぼう}う^{りつぼう}に^{りつぼう}非^{りつぼう}ず^{りつぼう}や。蓋^{りつぼう} ^{りつぼう}モ^{りつぼう}イ^{りつぼう}セ^{りつぼう}イ^{りつぼう}の^{りつぼう}律^{りつぼう}法^{りつぼう}に^{りつぼう}録^{りつぼう}して^{りつぼう}云^{りつぼう}く、^{りつぼう}穀^{りつぼう}物^{りつぼう}を^{りつぼう}踐^{りつぼう}み^{りつぼう}落^{りつぼう}す^{りつぼう}牛^{りつぼう}に^{りつぼう}は^{りつぼう}。

^{くち}口^{くち}を^{くち}閉^{くち}づ^{くち}る^{くち}勿^{くち}れ^{くち}と。神^{くち}は^{くち}牛^{くち}の^{くち}爲^{くち}に^{くち}慮^{くち}る^{くち}か。抑^{くち} ^{くち}之^{くち}を^{くち}言^{くち}う^{くち}は、^{くち}特^{くち}に^{くち}我^{くち}等^{くち}の^{くち}爲^{くち}に^{くち}する^{くち}か。

こ われら ため しる けだしたがえ もの のぞみ たがえ こくもつ ふ おと もの
 是れ我等の爲に録されたり、蓋 耕す者は、望ありて耕すべし、穀物を踏み落す者
 そのきぼう ところ う のぞみ これ な も われなんぢら うち しん ぞく もの ま
 は、其希望する所を獲る望ありて之を爲すべし。若し我爾等の中に神に屬する物を播
 きたらば 爾等の身に屬する物を獲るは、豈大事ならんや。若し他人此の權を爾等の中に
 え いわん われら しか われら こ けん もち すなわちおよそ こと しの
 獲ば、況や我等をや。然れども我等は此の權を用いざりき、乃凡の事を忍ぶ、ハリ
 ストスの福音に 聊も阻礙を置かざらん爲なり。

(比較用 口語訳) あなたがたが主にあることは、わたしの使徒職の印なのである。わたしの批判者たちに対する弁明は、これである。わたしたちには、飲み食いをする権利がないのか。わたしたちには、ほかの使徒たちや主の兄弟たちやケパのように、信者である妻を連れて歩く権利がないのか。それとも、わたしとバルナバとだけには、労働をせずにいる権利がないのか。いったい、自分で費用を出して軍隊に加わる者があろうか。ぶどう畑を作っていて、その実を食べない者があろうか。また、羊を飼っていて、その乳を飲まない者があろうか。わたしは、人間の考えでこう言うのではない。律法もまた、そのように言っているではないか。すなわち、モーセの律法に、「穀物をこなしている牛に、くつこをかけてはならない」と書いてある。神は、牛のことを心にかけておられるのだろうか。それとも、もっぱら、わたしたちのために言うておられるのか。もちろん、それはわたしたちのためにしるされたのである。すなわち、耕す者は望みをもって耕し、穀物をこなす者は、その分け前をもらう望みをもってこなすのである。もしわたしたちが、あなたがたのために霊のものをまいたのなら、肉のものをあなたがたから刈りとるのは、行き過ぎだろうか。もしほかの人々が、あなたがたに対するこの権利にあずかっているとすれば、わたしたちはなおさらのことではないか。しかしわたしたちは、この権利を利用せず、かえってキリストの福音の妨げにならないようにと、すべてのことを忍んでいる。

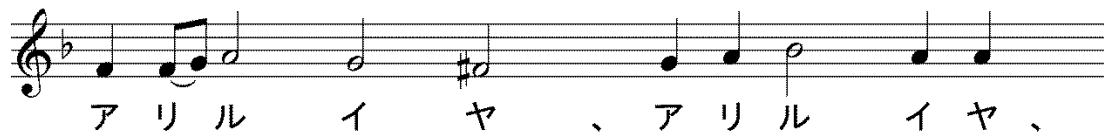
代禱) 睿智、

誦經) アリルイヤ、

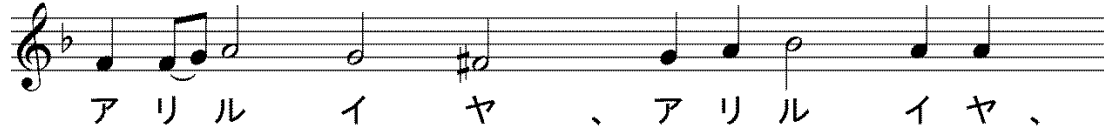
【 アリルイヤ 主日第2調 】



誦經) 願わくは主は憂の日に於て爾に聴き、イアコフの神の名は爾を扨ぎ衛らん、



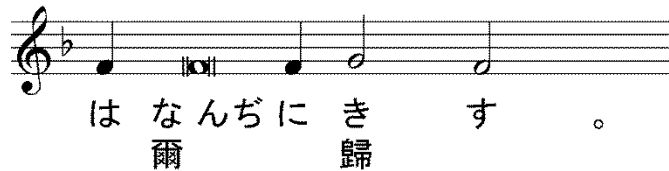
誦經) ^{しゅ}主よ、^{おう}王を救え、^{すく}又我等が^{またわれら}爾に^{なんぢ}呼ばん時、^よ我等に^{とき}聴き^{われら}給え、^{たま}



【 福音經 (エヴァンゲリオン) マトフェイ福音書 77 端 18 章 23~35 節 】

代禱) ^{えいち}睿智、

誦經) マトフェイ傳の^{でん}聖^{せい}福^{ふく}音^{いん}經^{けい}の^{よみ}讀、



代禱) ^{つつし}謹^きみて聴くべし、

誦經) ^{しゅ}主は^さ左の^{たとえ}譬^{もう}を^い設けて^{てんごく}曰えり、^{そのしよぼく}天國は、^{かいけい}其諸^{ほつ}僕と^{くんおう}會計せん^にと^{かい}欲せし^に君^に王^に似たり。會

^{けい}計^{はじ}を始め^{とき}し時、^{いつせんまんきん}一^{おいめ}千^{もの}萬^{かれ}金^ひの^{きた}債^{そのつぐの}ある^{あた}者を^に彼^にに^き曳^き來^るれる^{あり}あり。其^償償^うう^{こと}こと^能能^わわ^{ざる}ざる

^よに^に因^りりて、^{しゅ}主^{かれ}は^み彼の^{そのさいし}身^{そのことごと}と、^{しよいう}其^{ひさ}妻^{つぐの}子^{めい}と、^償償^{わん}わん^{こと}こと^をを^命命^ぜぜ

^{そのぼく}り。其^ふ僕^ふ俯^ふ伏^{して}して、^{かれ}彼^{はい}を^い拜^しして^{しゅ}曰^{われ}えり、^{ゆる}主^{われ}よ、^{われ}我^{ことごと}を^{なんぢ}寛^{つぐの}う^にせ^償せよ、^{わん}我^に盡^{わん}く^に爾^に償^{わん}わん。

^{そのぼく}其^{しゅ}僕^{あわれ}の主^{かれ}は^{はな}憐^{かれ}みて、^{おいめ}彼^{ゆる}を^{そのぼくい}釋^{ひとり}ち、^{とも}彼^{おのれ}に^に債^をを^免免^せり。其^に僕^に出^ででて、^に一^に人^にの^に同^に僚^にの、^己己^にに^に償^をを^に償^を

^{ぎん}銀^い一^{おいめ}百^{もの}の^あ債^{これ}ある^{とら}者^のに^の遇^しいて、^い之^{なんぢ}を^お執^とえ、^{ところ}喉^{われ}を^{つぐの}扼^にめて^に曰^にえり、^に爾^にが^に負^にう^に所^にを^に我^にに^に償^を

え。其同僚彼の足下に俯伏して、求めて曰えり、我を寛うせよ、我 尽 く爾に償わ

ん。然れども、彼 肯 わず、乃 往きて、其 債 を 償 うに至るまで、之を獄に下せり。

た ともこれ み はなはだうれ きた あ ところ ことごと しゅ つ そのときしゅ かれ
佗の同僚之を見て、甚 憂い、來りて有りし 所 を 悉 く主に告げたり。其時主は彼を

め いわ あ ぼく なんぢわれ もと よ われそのおいめ ことごと なんぢ ゆる わ
召して曰く、悪しき僕よ、爾 我に求めしに因りて、我 其 債 を 悉 く爾に免せり、我

が 爾を 憐 みし如く、爾 も亦 爾 の同僚を 憐 むべきに非ずや。主 乃 怒りて、其

ことごと おいめ つぐの いた かれ ごくり わた も なんぢらおのおのそのころ おのれ
悉 くの債 を 償 うに至るまで、彼を獄吏に付せり。若し 爾等 各 其 心 より己

けいてい そのつみ ゆる わ てん ちち またか ごと なんぢら おこな
の兄弟に其罪を免さずば、我が天の父も亦斯くの如く 爾等に行わん。

(比較用 口語訳) 天国は王が僕たちと決算をするようなものだ。決算が始まると、一万タラントの負債のある者が、王のところに連れられてきた。しかし、返せなかったので、主人は、その人自身とその妻子と持ち物全部とを売って返すように命じた。そこで、この僕はひれ伏して哀願した、『どうぞお待ちください。全部お返しいたしますから』。僕の主人はあわれに思って、彼をゆるし、その負債を免じてやった。その僕が出て行くと、百デナリを貸しているひとりの仲間に出会い、彼をつかまえ、首をしめて『借金を返せ』と言った。そこでこの仲間はひれ伏し、『どうか待ってくれ。返すから』と言って頼んだ。しかし承知せずに、その人をひっぱって行って、借金を返すまで獄に入れた。その人の仲間たちは、この様子を見て、非常に心をいため、行ってそのことをのこらず主人に話した。そこでこの主人は彼を呼びつけて言った、『悪い僕、わたしに願ったからこそ、あの負債を全部ゆるしてやったのだ。わたしがあわれんでやったように、あの仲間をあわれんでやるべきではなかったか』。そして主人は立腹して、負債全部を返してしまうまで、彼を獄吏に引きわたした。あなたがためいめいも、もし心から兄弟をゆるさないならば、わたしの天の父もまたあなたがたに対して、そのようになさるであろう。

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 、 光 榮

はなんぢにきす。
爾 歸

※代式祈祷③ へ